

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2025.2
Vol. 12

飯田文化会館 ニュースレター

TAKE FREE

第2回 飯田市新文化会館整備に関する専門家会議
第12回 飯田市新文化会館整備検討委員会



基本理念

みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば

第2回 飯田市新文化会館整備に関する専門家会議

施設の整備方法を検討

建設費の高騰や広大な敷地の確保、リニア中央新幹線工期延長による飯田市の長期財政見通しの見直しという現状があるなかで、基本構想の実現を念頭に、メインホール・サブホール・人形劇場の一体整備と分散整備、それぞれの優位点や課題について意見を交わしました。

飯田市が掲げる検討の方向性

- 創造的なアイデアで基本構想の具現化を追求する
- 「飯田ひろば」としての「集う」機能の実現を追求する
- 一体※の整備に加えて、施設を分散※して段階的に整備する方法を含めて検討する
- 実質的で利用しやすい施設づくりを追求する

メインホール

サブホール

人形劇場

※「一体」とは複数の施設を1カ所の建設地に整備

※「分散」とは複数カ所の建設地に施設を分けて整備

専門家会議で出された意見のポイント(抜粋)

- 施設構成は、市民の皆さんが現在の飯田文化会館などの既存施設でどのように活動してきたかを考慮することが必要では
- 新しい文化会館のあり方が、リニア開業後の市民活動にも大きく関わってくる
- 他地域のホール施設の利用特性を調査し、飯田市にフィットするものを検討してはどうか
- 交流促進と創造支援の機能が「飯田ひろば」のメインのコンセプトであり、そこに他の機能をどのように付随させるかが重要
- アクセシビリティは重要なポイント。車を運転しない方々の「集まる」への対応が必要
- 周囲の公共空間、外部空間も活用しながら、施設に交流促進や創造支援といった機能を持たせ、基本構想の「ひろば」をより空間的に表現する方法もある
- 一体整備は、人の賑わいが一体でできる、見える。一方、分散整備は、利用者の間口や選択肢を増やすことができる
- 分散整備は、各施設に特色を持たせて機能を発揮できることが魅力。活動が多様化していく中で有効。機能の与え方によっていろいろな可能性が考えられる
- 分散整備は複数の箇所で人の賑わいが施設の外ににじみ出るのは魅力だが、施設構成など考慮する点は増える
- 一体整備、分散整備、いずれの方法にしても、建設費は今後更なる上昇が懸念される
- 分散整備は延べ床面積が増え、管理運営のための人材が必要。コスト等の兼ね合いから各施設を魅力的にする限界点は自ずとあるので、コストと限界点を長期的に見て計画することが必要

このほか、このような意見も…

建設地を分散させれば
各施設の特色を発揮でき
有効的な部分もあるが
運営面は慎重に

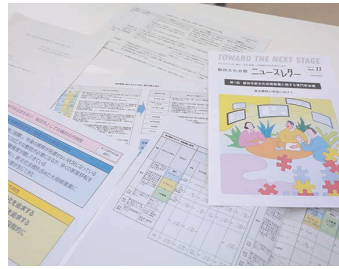
休館日の設定や
常時使うエリアと
大規模イベントで使うエリアを
分けることで維持費の軽減に
つながるかも

基本理念を達成できるホールが必要
また、市民の皆さんが
新しい施設に期待する機能を
絞っていく必要がある

自動運転タクシーの導入など
時代の変化(技術の革新)を
計画段階で、どのくらい
織り込んでおくかも重要

今後も適正な性能・仕様を
イメージしていく必要がある





第12回 飯田市新文化会館整備検討委員会

分散整備は、基本構想にどう影響する？ ～「集う」の実現に向けて～

これまで開催した専門家会議において、建設費高騰、敷地確保といった課題を考慮し、基本構想の実現に向けて、どのように整備していくか検討する中で、施設を分散して整備するという選択肢もあるのではという意見が出されました。これを受けて整備検討委員会では、施設を分散して整備とした場合、基本構想の実現にどのように影響するのか、グループに別れて意見を交わしました。

整備検討委員からの意見

- 「丘の上」は文化・教育の拠点であってほしい、丘の上のどこかで分散もあり得る。波及し合いつながりが生まれ、回遊できる形になることが望ましい。「分散」の輪の大きさにもよるが、回遊が生まれるのであれば、分散であっても、新しい集い方が生まれる可能性もあるのでは
- 基本構想の実現を考えると一体が理想だが、土地取得・コストなどの課題に向き合わなければならず、特に建設地の選定は非常に難しい
- 各施設が基本構想を実現する機能を備えていけば分散もありだが、分散した人材やそれぞれの施設が持つ「力」が集約できない問題が出てくると、管理運営・人件費が余分にかかってしまうことも考えられる
- それぞれの施設が有機的につながり、一つの方向に向かえるかが重要。どういうつながり方ができるか、役割分担や補い合い方が大事になってくる。「集う」をどう実現するかを各施設が連携して、実行していく必要がある
- いずれかの整備の方法を検討すると同時に、新しい交通手段も考えながら、どこの場所になっても建物だけでなく周辺を含めた有機的なつながりが生まれる「環境」をつくる意識を大事にしていきたい
- 分散でも運営は集約して1つの場所で管理運営していくことが大事と感じる。そのためにも、今から人材育成について検討し実行していく必要があるのではないかと





竹田市総合文化ホールグランツたけた(大分県)
チーフプロデューサー
元 上田市交流文化芸術センター
(サントミュージーゼ)プロデューサー
おざわ おうさく
小澤 櫻作 委員

課題を抱えつつも、委員の皆さんの「もっと良くしていこう」という思いが伝わる活発な意見交換ができた。全国を見ると、整備計画が止まってしまったところがあるが、文化を止めてはいけない。一度文化が止まってしまうと元に戻すのに、膨大なエネルギーが必要。課題はまだまだあるが「乗り越えていく力＝飯田の力」と感じている。



愛知県立芸術大学 特任職員
元 名古屋フィルハーモニー交響楽団
演奏事業部長
やまもと ひろし
山元 浩 委員

県内外の文化施設でも、深刻な費用の問題を抱えているところは少なくない。分散、段階的というキーワードが出て戸惑いも感じられるが、費用を理由に規模を縮小する、と結論をすぐに出すのではなく、「夢を持って次の世代につなげる施設をつくる」という思いを第一に、文化を止めずに継承しながら次の段階につなげていければ。



明治大学教授
博士／一級建築士
米国公認都市計画家
ささき ひろゆき
佐々木 宏幸 委員

各施設の利用者層のアクセスと交流を考えると、例えば施設がABCと分散された場合、ABCのつながりがとても重要。移動手段の整備によって、広いエリアで有機的なつながりが可能になれば、モビリティによって分散するエリア間の距離も変わってくる。分散した施設間の移動が、まちのにぎわいを生み出す可能性も期待できる。



公益社団法人 全国公立文化施設協会 アドバイザー
劇場計画コンサルタント／空間創造研究所 取締役
元 岡山芸術創造劇場長
くさ か としや
草加 叔也 事務局

高齢化・少子化が進むと、公共交通機関の整備が今以上に必要となる世の中になるかもしれない。その場合、施設規模を縮小し、公共交通機関が整備されやすいエリアに配置する選択肢もあるのではないかな。分散でも基本構想は実現できるという意見がある中で、どういう選択肢があるのか今後考えていくことが必要。



今回の専門家会議と整備検討委員会を通じて、基本構想で掲げた基本方針の一つ「集う」が強調され、施設が分散しても、分散した施設間が有機的につながる、アクセスしやすさ、周辺のまちとつながりが生まれる環境づくりなどを求める意見が寄せられました。

各会議で寄せられた意見などを考慮しながら、令和7年度にかけて基本計画づくりを進めます。

集まるを“ゼロ”から考えるワークショップ 開催

令和6年11月8日、22日、12月13日の3日間。飯田文化会館にて「これからの時代、人が集まる文化施設とは」をテーマとしたワークショップを開催し、公募で集まった主に飯田下伊那在住の延べ約90名が参加しました。今の文化会館でも新しい文化会館でも、もっと多くの皆さんが集まって、これからの活動を盛り上げていこうとしたとき、どのようなアイデアがあるか。参加者は4つのグループに別れ、意見交換を行いました。

それぞれ活発な議論が行われ、最終日は全員で輪になり、アイデアや感想を一人ずつ発表。“集まること”について参加者からは、「楽しい経験や新しい関係を生む」といった意見をはじめ、「目的があると集まりやすい」「行くと安心できる環境が人を引き寄せる」「継続性を保つには、自発性や好奇心が必要」など、さまざまな意見が出されました。また、集まることが自己開発の場であるといった意見から、文化会館がそのような役割を果たすことにも期待が寄せられました。

